

## 事前評価個表

整理番号	16
------	----

地域（地区）名	<small>よどがわじょうりゆう</small> 淀川上流	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	京都府	対象市町村	<small>きょうとし</small> 京都市ほか11市町村
事業実施期間	H30～H34（5年間）	事業実施主体	京都府、市町村、森林組合等

事業の概要・目的	<p>本地区は、京都府の南部に位置し、森林面積は158千ha、対象民有林は154千ha（森林全体の98%）、うち人工林は59千ha（人工林率38%）となっており、Ⅹ齢級以上の森林が70%を占め、森林資源がますます充実している。</p> <p>これまで、森林の公益的機能の向上を図るとともに、充実した森林資源の有効活用を図るため森林整備を推進してきたが、台風等による集中的な豪雨等が多数発生し山地災害のリスクが高まるなど、地域住民の森林の公益的機能の向上に対する期待は一層高まっている。併せて、既設林道等も有効に活用し、本地区内に存する市場や木材加工施設等と情報を共有しながら、森林整備により発生した間伐材等の安定供給を図り、資源の循環利用と地域林業の成長産業化を目指す必要がある。</p> <p>本事業では、これら地域の現状を踏まえ、森林の公益的機能の持続的な発揮と持続的な森林経営の確立に向けて、森林経営計画等に基づく計画的な間伐等の森林整備を実施する。</p>
事業内容・事業費	<p>森林整備：7,670ha 人工造林、樹下植栽等、下刈り、雪起こし、枝打ち、除伐、保育間伐、間伐、更新伐等</p> <p>総事業費：4,283,000千円</p>
費用対効果分析結果	<p>B/C = 2.72 (総便益(B) = 19,892,383千円、総費用(C) = 7,320,739千円)</p>
評価結果	<p>必要性：当地域における森林施業の遅れは齢級構成の現状から顕著であり、間伐等を中心とした森林整備の計画は森林の公益的機能を発揮させる上で必要である。</p> <p>効率性：費用対効果分析の結果から十分な効率性が認められる。</p> <p>有効性：既設の路網等も有効に活用しながら、間伐等により発生する間伐材を積極的に利用することとしており、地域資源の循環利用と地域林業の活性化に向け有効な計画である。</p>

## 便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業

都道府県名: 京都府

地域(地区)名: 淀川上流よどがわじょうりゅう

(単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評価額	備 考
水源涵養便益	洪水防止便益	6,229,011	
	流域貯水便益	1,146,265	
	水質浄化便益	2,879,210	
山地保全便益	土砂流出防止便益	4,799,375	
環境保全便益	炭素固定便益	2,102,350	
木材生産便益	生産確保・促進便益	2,736,172	
総 便 益 (B)		19,892,383	
総 費 用 (C)		7,320,739	
費用便益比	$B \div C = \frac{19,892,383}{7,320,739} = 2.72$		

